

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072300355		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム野いちご	ユニット名	A棟
所在地	福岡県八女市矢原5 1 - 1		
自己評価作成日	2023年3月5日	評価結果市町村受理日	2023年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年3月30日	評価確定日	2023年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切にすることはもちろん、季節の食べ物や行事など季節感を感じられるようにしています。1日1日を大切に考え、今、その時を大事にできるように、その日の気分や思いに添える事ができるよう日々取り組んでいます。また、時間で区切らない事で柔軟な対応が取れる事へも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム野いちご”の周囲は田園が広がり、季節の移ろいを感じる事ができる。玄関やベランダで日向ぼっこを楽しみ、中庭で体操や散歩をされており、庭のプランターにイチゴ等が育ち、ご利用者が水やりをされている。リビングの天井は高くて広く、ご利用者自らが「自分でせやん」と洗濯物をたたまれている。プランターにサニーレタスやイチゴ等を植える時は、ご利用者が指導者となり教えて下さっている。2022年5月に新ホーム長が就任し、ご本人に選択肢を分かりやすく伝える事で自己決定（意思決定）できるような声かけの仕方を職員に伝えると共に、2023年度から各ユニット目標を考え、更なるステップアップに繋げている。代表（社長）・両ユニットの管理者（リーダー）・全職員と結束し、理念である「一日一日を大切に『今を』大切に暮らす」になるように努めている。今後も近隣地域の中で、“野いちご”というグループホームが認知され、高齢者介護や認知症ケアについての相談が気軽にできるホームになっていきたいと、日々前を向いて楽しく歩まれているホームである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいて、日常のケア、毎朝のミーティング、全体会議等を通してその都度情報の共有に努めている。	「1日1日を大切に『今』を大切に暮らす」等の理念を大切にされている。職員個々の「今」の捉え方や、日々の取り組み状況の振り返りが行われ、職員側の業務中心の都合にならないよう、よりご利用者の視点に立った考え方を意識できるようになっている。季節感をより感じられるよう、桜の花見にお連れすることができ、プランターにイチゴ等を植え、水やり等をして頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過であり、なかなか日常的な交流ができなかった。	のどかな地域であり、近所の方が野菜を持参して下さる。コロナ前は町内の草むしりや総会に参加し、地域の課題等を共有したり、ご利用者と一緒に小学校の文化祭に参加していた。敬老会にはボランティアの方が来て下さり、2019年春は「ハッピーマザーズ」の慰問があり、歌や体操を楽しまれた。今後も地域の方や子ども達との交流方法を検討していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問等の受け入れを行い、認知症への理解を深めていたが、今回はコロナ過であり出来ていない現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過での面会の意見等頂き、玄関先や窓越しでの短時間での面会などへつなげた。	コロナ禍は書面会議が多く、電話で家族に照会し、家族等からの質問内容を含めて会議録に残し、市役所と地域包括に郵送している。書面には毎月の行事内容・入居者情報・身体拘束等適正化委員会の報告・研修内容等が盛り込まれている。以前は区長の参加もあり、コロナ禍における「回覧板の回し方」や「お宮掃除は予定通り」等を教えて頂いていた。	【外部評価（2）と共通】 今後も地域の方の参加を増やすと共に、対面で開催できる方法を考えていく予定である。コロナ禍、地域交流が途絶えており、散歩の時に挨拶をしたり、ホーム周辺の道路掃除をしながら地域交流の機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録を提出する際に、簡単ではあるが現状について伝えたりしている。また必要時には連絡を取り相談しています。	代表等が主になり、市役所と情報交換している。八女市役所からハザードマップを頂き、八女市の災害対策室からも台風の時期に連絡を頂いており、系列ホームへ避難する前後は八女市に報告している。ご利用者の入退居情報も電話で報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、19時～6時までは防犯目的にて閉めているが、日中に施錠する事はない。身体拘束適正化委員会を設置し勉強会の開催など拘束に繋がらないよう取り組んでいる。	穏やかに過ごされている方が多く、ご本人の生活ペースを大切に、無理強いしないようにしている。コロナ禍は両ユニット合同で身体拘束等適正化委員会を行い、内部・外部研修に参加している。内部研修では禁止規定などを穴埋め式にし、各自で考える機会が作られている。2023年度は虐待防止委員会も開催していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の開催で理解を深め、日頃の業務の中においても互いに声かけやすい環境作りを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員から権利擁護の研修を受けていたが、コロナ禍で中断しており収束後に再開したいと考えているが出来ていない。分からない事あれば、都度関係機関へ相談している。	入居時にパンフレットを使用し、家族に説明すると共に、入居後も制度の必要性を検討している。制度を利用している方もおられ、今後は後見人と情報交換していく予定である。今後も権利擁護の研修等を行っていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明し、ご理解して頂けるよう努めている。また、分かりにくい事などないか尋ねるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見などがあつた際は、その都度管理者へ報告行い対応している。必要時には外部の関係機関へも報告行い、運営に反映できるようにしている。	入居前にホーム長が老健を訪問し、ご本人と家族の思いや不安を傾聴している。コロナ禍も家族と玄関先で面談したり、電話で情報交換しており、外出や外泊の要望等を伺っている。担当職員がお便りを書き、団らん風景等の写真と通信を同封し、暮らしぶりを報告している。今後も家族の真意を理解できるように努め、天気の良い日は外（庭）で面会できるような工夫をしていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やリーダー会議を行い、その中で意見や提案等を出している。各棟でも行い、細かい点の情報の共有化を図っている。	職員は、代表やホーム長、管理者（リーダー）等に思いや意向を相談し、全体会議やユニット会議等で日々のケア内容やコロナ禍の外出等を検討している。各ユニット・ホーム全体の結束は深まってきており、更なるスキルを磨いていける取り組みを続けている。2020年度から法人全体の施設長（ホーム長）会議が始まり、各事業所の現状や要望を共有し、災害対策の協議も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、公休の希望を確認し、身体や私生活に無理のない職場環境を作れるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や、性別等にて採用を考えるのではなく、職員が利用者の立場にたてる力量を重視している。良い能力があれば、活かせるように取り組んでいる。希望の休みを確認することにより、社会参加等が出来るように配慮している。	採用時は資格の有無を問わず、介護に対する考え方や思い、介護へのやる気と共に、社会人としての一般常識を備えているか等を大切に面接している。職員の年齢幅は広く、絵が得意な職員等は、ホーム内の掲示物やカレンダー作り等を担われている。職員個々の社会参加（地域活動への参加等）も大切にしている。職員間で意見が言い合える環境作りを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃からの業務内や、会議の場を通して人権・尊厳を重んじられるように促している。	ご利用者は「人生の先輩」であり、“笑顔であいさつ”を心掛けている。2023年度はユニット個々の目標を作り、実践と振り返りを行う予定であり、各ユニットの職員間で決めた目標を実践するために、ホーム長が具体化した行動を追記している。	今後も新任・現任職員に向けた研修計画を作成し、更なる知識の習得に繋げていく予定である。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議内での勉強会の実施や、知識や技量から、能力に応じた外部研修が受講できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で出来なくなっているが、グループホーム部会を通じて同業者間の交流や、情報交換ができる仕組みは構築できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を行い、心身の状態、病状の確認を行い、情報収集を行い、さらに、情報提供と照らし合わせ、利用者が最善の環境にて受け入れられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様よりの、本人様や、ご家族様の情報を確認し、安全安楽に過ごせる生活の場の環境づくりに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成し、本人にとって必要な事の優先度を把握し、それに応じた支援を行う事を心掛けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がそれぞれに意識しながら関係づくりを行っている。利用者と一方通行にならないように寄り添いながら対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で面会が制限されている中でも、電話で直接話して頂いたり、毎月その月のご様子を手紙に書いて送っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は、面会時はゆっくりと過ごしていただける時間や雰囲気、環境の提供に努めていた。面会はコロナ過で制限させて頂いているが、届いた手紙などに対しては、お礼の電話をして頂いたり、直接電話で取り次いだりしている。	ご利用者と職員が同郷の方もおられ、地元の会話を楽しまれている。コロナ過で面会制限がある中、家族と窓越しの面会を継続したり、お友達も訪問して下さい。手紙が届いた際は、ご本人からお礼の電話をして頂いている。コロナ以前は家族とお墓参りに行かれる方もおられた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来る家事や作業などをあえて作る事で関係性の構築を行ったり、互いが支えられるような支援を心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「何かありましたらいつでもご連絡してください」とお声掛けし、いつでも相談を受けられる環境を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ本位になっていないか確認しながら本人の気持ちに寄り添う事を意識し、何が必要かを検討している。	日々の会話の中で「自宅に帰りたい（家族に会いたい）」等の要望を伺い、窓越しの面会等が行われている。昔の仕事（農家等）も会話のきっかけにされており、プランター作りのご指導を頂いている。意思疎通が難しい方も表情や仕草、体調等を丁寧に確認している。今後も内面で思われている事を少しでも理解できるよう、スキルを磨いていく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントや情報提供書、家族への聞き取る事はもちろん、それまでの生活習慣などを継続出来るよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況から、それぞれの生活リズムを構築できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人はもちろん、ご家族へも意見を聞き取っている。スタッフ間で話し合う際も、多角的な考え方を持つように意識し、その時々 の状態に応じた介護計画が作成できるように取り組んでいる。	ご本人の意思決定を大切にされている。生活歴や病歴、「認知」「見当識」、ADL等をアセスメントし、「歩行は50m」等を記載している方もおられる。体調変化後は赤字で記入し、介護計画には生活リハビリや日々の役割等を盛り込み、日課表も作成している。毎月のモニタリングで実施状況を記録している。	①今後もADL・IADL等の「有する能力（できそうな能力）」「要因」等をアセスメントに残し、長期・短期目標へ繋げると共に、事故報告に記載した「要因・対策」をアセスメントに追記していく予定である。 ②アセスメントの右欄に「ご本人の要望」を追記し、介護計画のニーズ欄に繋げると共に、家族との更なる話し合いを行っていく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か変化や、特記事項がある際には記録に残し、必要時は赤字にて表記している。毎月実践状況を評価し見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過で、外出や人と直接的に会う事が制限はされていたが、手紙や電話でのやり取りなど柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの病院を継続して頂く事で、地域と途切れない関係作りなど、入居されていても、ご自身らしく暮らしを続けて行けるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には今迄のかかりつけ医を継続して頂いている。病状の変化などで専門医が必要な際には、かかりつけ医とご家族へ報告し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を継続する方もおられる。職員の観察力もあり、早期対応に繋げており、月2回の往診時を含め、24時間体制で医師に相談できる。系列ホームの看護師も毎週訪問して下さり、アドバイスを受けている。「眼科」「泌尿器科」「胃腸科」等は職員が同行し、家族が通院介助された際も情報共有している。</p>	
33		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎週1回の看護師の訪問があり、その際に指導や情報の提供を受けている。</p>		
34		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>先方の機関との連絡を取り、病状の確認や退院時期の確認を行い、医療連携を図っている。</p>		
35	(15)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した場合の対応を説明し、同意を得ている。その際にはその都度家族との話し合いに場を設けている。</p>	<p>終末期の意向確認を行い、身体上、生活に支障が出てきた際は、ご本人が生活を送る場（環境）が「ホームが良いのか」、「他の介護施設、病院が良いのか」を総合的に判断していく事を説明している。「最期までここで」等の思いを伺い、体調が変化した際は、日々揺らぐ家族の心に寄り添い、柔軟に対応している。主治医や医院の看護師の訪問もあり、点滴を受ける方もおられ、終末期は訪問看護も利用している。少しでも家族と会える時間を作り、窓越しに手を繋がれる方もおられ、職員全員で誠心誠意のケアを続けている。</p>	
36		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDを設置。日頃からドクターなどから指示のもと処置等を学び実践力を身につけている。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、避難誘導の反復訓練を行っている。同市内に関連事業所があり、協力体制を整えている。	2022年度はコロナ禍で消防署との訓練ができず、2022年6月、2023年3月にホーム単独で訓練を行った。矢部川もあり、豪雨の際は新庄にある系列ホームに避難でき、避難時はシャッターを全て閉めることにしている。災害に備え、飲料水・保存食・卓上コンロ・電灯・排泄物凝固剤・発電機等を準備しており、BCP（事業継続計画）も作成中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性もあるが、言葉使いを注意していくように促している。又、職員間でも注意や指導を行っている。	ご本人に応じた言葉を選び、質問の仕方に配慮し、ご本人が自己決定（意思決定）できるような声かけに努めている。トイレや浴室のドアなどをきちんと閉めるなど、当たり前の事が当たり前のように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員には、利用者の希望に寄り添えるようスタッフ間で情報を共有している。疑問形での声掛けや、選択肢を分かりやすく伝える事で自己決定できるような支援を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その場その時の、気分を大切に出来るよう一日の流れをあえて決めず、柔軟に対応できるように配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを把握するよう努め、好まれそうな衣類を声かけたり、ご自身で選んで頂けるような支援を心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや下膳など利用者を手伝っていただき、職員と協力して行っている。旬の食材を利用し季節感を味わえるメニューを提供できるように考えています。	全事業所の食事を法人内の厨房で作り、美味しい料理を届けている。ご利用者も盛り付け、お盆拭き、食器洗い、食器拭き等をして下さり、月1回「自炊の日」もあり、コロナ前のご利用者が包丁で皮むきをして下さっていた。梅干しを作り、らっきょうや干し柿、紫蘇のふりかけ等も手作りしている。代表がお寿司や恵方巻、お弁当を注文して下さり、ご利用者も喜ばれている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の確認を毎食時・毎日行っています。本人の嗜好を確認し、少しでも食欲が出る様に工夫しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。希望者には週1回の歯科診療を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄リズムの合わせたトイレ誘導や、声掛けを行っている。	日中・夜間の排泄状況を確認し、トイレでの排泄支援に繋げており、失禁が軽減できるように努めている。布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、必要に応じて誘導し、パッドの大きさも個々に検討している。希望者は同性介助し、トイレのドアを閉めるように努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数、量の子エックを行い。出来るだけ自然排便を促せるように、運動や、きな粉牛乳などの水分補給を行い排泄を促している。必要時には主治医の指示の元、緩下剤や、座薬の使用を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後よりの入浴を行っているが、本人の希望があれば、個々の希望に添える時間や曜日の設定を行っている。	着脱がおっくうで「今日はよか」という方もおられるが、入浴好きな方が多い。湯船に浸かる方もおられ、2人介助も行われている。シャワー浴の方も足浴等で保温に努めており、入浴時は職員との会話を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯もされている。羞恥心に配慮し、脱衣場や浴室のドアはきちんと閉め、希望される方は同性介助を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣やその日の気分に応じ昼寝や就寝時間などを決める様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示された副作用については各スタッフへ申し送っている。内服薬の調整等については主治医に相談している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や日頃の関わりや言動の中から、やりたい事や好き嫌いなどを見出して希望に添った個別支援が行えるように心掛けている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は季節毎に外出行事を行っていた。ご本人や家族より外出や外泊を希望の際にも柔軟に対応しており、今後はまたそのような対応を行っていく。	玄関やベランダでの日向ぼっこや、中庭で体操や散歩をされている。庭のプランターにイチゴ等が育ち、水やりをされている。近隣の土手に咲いている花を見るためにドライブしたり、桜の花見を楽しむことができた。コロナ前は近くの公園や花見（藤の花、秋桜等）、道の駅、八女伝統工芸館に行かれたり、お正月は地元の神社を参拝されていた。今後も更なる外出を楽しみにされている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に立て替え金を準備しており、そこから使用しているが、本人の希望でご自身で所持してある方もおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族から希望があればその都度対応している。コロナ過でもあり、面会も制限している中なのでより柔軟な対応を心掛けている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の大声などに注意している。自然な明るさや生活音などで心地よく過ごされるようにしている。臭いに対しては、オムツ類は新聞紙に包み処理したり、消臭剤などを使用し対応している。	A棟は夕陽を眺めることができ、B棟は朝日が入る。リビングの天井は高く、台所も同じ空間にあり、広いリビングで過ごされている。手作りの日めくりカレンダーで曜日を確認したり、季節を感じられる物を飾り、会話や意欲が出るような空間が作られている。リビングのテーブルで職員と一緒に洗濯物たたみなどの家事やレク等を行い、楽しく会話をされている。適宜換気も行われ、長い廊下の行き来が生活リハビリになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃からの関係性などから、席やソファの配置など考慮している。また、その時も気分などでも、落ち着ける場で過ごして頂けるよう、ソファの席を多めにとったり、居室でもいつでも過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、新しいものではなく使い慣れた物を準備して頂くようお願いしている。	全ての居室に電動ベッドを備え付けている。布団、枕、クリアケース、椅子、時計、お箸、コップ等を持ち込まれ、家族の写真やホーム長から贈られた感謝状が飾られている。今後も馴染みの物を持ってきて頂き、ご本人が望まれる居室の空間作りに取り組みられていく予定である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境の中なので、自由に動いて頂けるようにしている。常に付き添うのではなく、場面やご本人が困っている状況なのかを見極めるようにし、自然とご本人の出来る限り自立した生活に繋がるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				